

「指導の形態」を理解する

令和2年度 知的障がい教育室

本道における知的障がい教育の充実を目指し、教員の指導力の向上を図るため、参考となる資料を作成しました。今号は、「指導の形態」についての考え方を理解するための内容としたので、参考にしてください。

□ 指導内容と「指導の形態」の考え方

指導の形態から授業を考えると…

昨年度も、「生活単元学習」をしていたから、今年度も同じでいいか。

単元「買い物学習」には、店員さんとの会話があるから「国語」の話すことや、支払いもするから「生活」の金銭の扱いも入っているし、みんなで歩いて行くから「学級活動」も入っているな。



- ▲ 各教科等の指導内容を意識しづらい。
- ▲ 目標や評価が曖昧になる。
- ▲ 指導の方向性が見えづらくなる。

指導内容から授業を考えると…

本校では、「国語」の話すこと、「生活」の金銭の扱いに関する内容…、これらの指導内容を選択して指導しよう。

これらの指導内容を、どの「指導の形態」で指導するとよいかな。

「国語」の話すことは「教科別の指導」で、「生活」の金銭の扱いに関する内容は「生活単元学習」で指導しよう。



- 各教科等の指導内容が明確になる。
- 達成する目標や評価が明確になる。
- 教師の目指すべき指導が明確になる。

□ 「指導の形態」の選定

指導内容によって、どの「指導の形態」が適しているかといった明確な選定の基準はありません。しかし、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編の「各教科等を合わせた指導」に示された次の文章がヒントになると考えられます。

「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、児童生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的である～（後略）」

《ここをチェック》

学校で選択・組織した指導内容を、どの指導の形態で指導することがより効果的かを考えましょう。



北海道立特別支援教育センター

〒064-0944 札幌市中央区円山西町2丁目1-1 (011)612-6211